

資料 4

令和元年度新潟市健康づくり推進委員会資料

新潟市教育委員会保健給食課

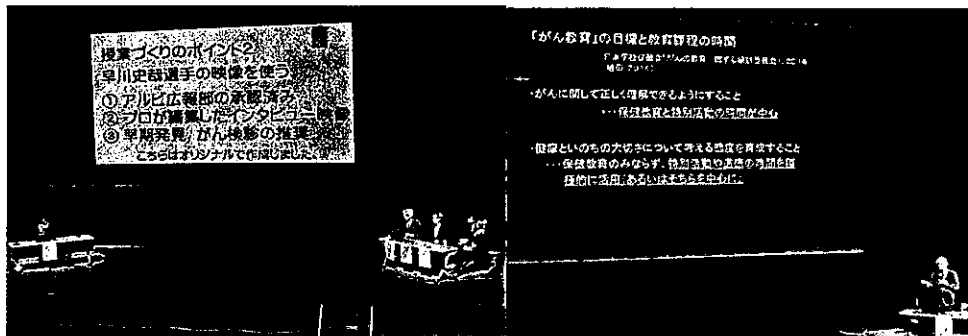
【令和元年度新潟市の学校におけるがん教育について】

※令和元年度文部科学省委託事業 がん教育総合支援事業(平成29年度～継続)

※新学習指導要領全面实施

(小学校 令和2年度、中学校 令和3年度、高等学校 令和4年度)

- 1 がん教育推進協議会の開催(8月27日・2月6日の2回)
- 2 小中高の推進校(大形小学校・巻東中学校・明鏡高等学校)による実践
 - (1) 公開授業(文部科学省がん教育プログラム補助教材活用)
 - (2) 教材資料提供(指導案・授業用教材・リレーフォーライフ参加等)
 - (3) がん教育研修会による実践発表
 - (4) 外部講師による講演会の開催(明鏡高等学校)
- 3 新潟市がん教育研修会に開催(江南区文化会館)
※参加者:学校関係者(管理職、教諭、養護教諭等)116名
 - (1) 推進校による実践発表
 - (2) 講演会
演題「学校におけるがん教育の考え方・進め方」
講師 聖心女子大学 副学長
現代教養学部教育学科 教授 植田 誠治 様
- 4 小学生用リーフレット作成(平成30年度中高生授業用リーフレット作成済)



【がん教育研修会実践発表】

【がん教育研修会講演】

令和元年度

新潟市がん教育研修会

- 1 主催 新潟市教育委員会
- 2 期日 令和元年12月12日(木)
- 3 会場 新潟市江南区文化会館 音楽観劇ホール
- 4 対象者 (1) 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員等
(管理職、保健主事、体育・保健体育担当教諭、学級担任、養護教諭等、がん教育に関わる教職員)
(2) 地域保健・医療関係者
(3) がん教育外部講師等

5 日程

13:00~13:15	受付
13:15~13:25	開会
13:25~14:50	実践発表 令和元年度文部科学省委託事業がん教育総合支援事業推進校 座長 新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科 教授 脇野 哲郎 様 発表者 新潟市立大形小学校 駒沢 里衣子 教諭 新潟市立巻東中学校 曾武川 隆 校長 新潟市立明鏡高等学校 渡辺 江利子 養護教諭 遠藤 文康 教諭
14:50~15:00	【休憩】
15:00~16:30	講演 演題 「学校におけるがん教育の考え方・進め方」 講師 聖心女子大学 現代教養学部 教育学科 教授 植田 誠治 様
16:30~	質疑応答 閉会 新潟市学校保健会 副会長 阿部 修

令和元年度 新潟市がん教育研修会開催要項

1 目的

がんは、重要な健康課題となっており、健康に関する国民の基礎素養として身に付けておくべきものとなっている。そうした中、がん対策基本法（平成18年法律第98号）の下、がん対策基本法の一部を改正する法律が成立（平成28年12月16日）し、第23条に「学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずる」と記載されたことを受けて、第3期がん対策推進基本計画（平成29年10月24日閣議決定）では、「地域の実情に合わせ、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める」ことが示された。

このようながん教育をめぐる状況を踏まえ、文部科学省では「がんについて正しく理解できるようにする」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」ことを目的とし、学習指導要領に対応したがん教育を推進している。

新潟市でも平成29年度から文部科学省委託事業を受け、年2回のがん教育推進協議会の開催、小学校・中学校・高等学校各1校の推進校におけるがん教育の実践、教職員等を対象とした「新潟市がん教育研修会」を行ってきた。

今年度も学校教育全体の中でがん教育の一層の推進を図るために、携わる関係者を対象とした研修会を開催する。研修会の参加については、平成30年度の新潟市がん教育推進協議会において、管理職及び教諭の参加が少ないことが課題として挙げられているため、積極的な参加をお願いしたい。

2 日時 令和元年12月12日（木） 午後1時15分～4時40分

3 会場 新潟市江南区文化会館 演劇ホール
住所 新潟市江南区茅野山3丁目1-14 電話 025-383-1001

4 内容

(1) 実践発表（令和元年度文部科学省委託事業がん教育総合支援事業推進校）

座長 新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科
教授 脇野 哲郎 様

発表者 ① 新潟市立大形小学校 教諭 駒沢 里衣子 様
② 新潟市立巻東中学校 校長 曾武川 隆 様
③ 新潟市立明鏡高等学校 教諭 遠藤 文康 様

(2) 講演

演題 「学校におけるがん教育の考え方・進め方」

講師 聖心女子大学 現代教養学部教育学科 教授 植田 誠治 様

5 日程

13:00	13:15	13:25	14:50	15:00	16:30	16:40
受付	開会	(1)実践発表及び質疑応答	休憩	(2)講演及び質疑応答		閉会

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で 26 名

医師 4 名 (小児科・放射線科・産婦人科・呼吸器内科各 1 名), 大学教授 1 名, 看護師 1 名, MSW 1 名, 保健所職員 2 名, がん患者会関係者 1 名, PTA 関係者 1 名, 学校長 3 名, 教諭 2 名, 養護教諭 4 名, 教育委員会事務局職員 6 名

2. 開催時期、検討内容

(1) 第 1 回 平成 30 年 7 月 24 日 (火)

- ・学校におけるがん教育の取組について
- ・今年度のがん教育の方針と及び取組について
- ・推進校の取組について

(2) 第 2 回 平成 31 年 2 月 7 日 (木)

- ・新潟市がん教育研修会の報告
- ・推進校の実践報告 (大淵小・小須戸中・明鏡高)
- ・生徒 (中・高校生) 向けパンフレットのについて
- ・今年度の成果と課題をまとめ、次年度の方向性を検討

② 教育委員会としての取組

ア がん教育推進協議会の開催 (年 2 回)

昨年度の取組の成果と課題を踏まえつつ, 学校におけるがん教育推進の理解を深めるための方策について検討し, 共有した。

イ がん教育研修会の開催

推進校の実践発表や講演会を通して, 学校におけるがん教育に対する理解を深め, 自校におけるがん教育の取組について具体的な取組内容を検討し, 実践につなぐことができるよう取り組んだ。

【平成 30 年 12 月 13 日 新潟市がん教育研修会開催 (会場: 新潟市音楽文化会館)】

- ・156 名の参加 (小学校 67 名, 中学校 32 名, 高等学校 5 名, 中等教育学校 1 名, 特別支援学校 2 名, その他 (がん教育推進委員・保健師等) 15 名, 学生 34 名)
- ・推進校 3 校の実践発表では, 新潟医療福祉大学健康科学部スポーツ健康学科の脇野教授から, 推進校の取組を今後, 全校の実践に生かすためのポイントを中心に指導講評をいただいた。
- ・講演会は, 「今, 学校で始まるがん教育」と題して, 東京女子医科大学 がんセンター長, 化学療法・緩和ケア科 教授 林 和彦氏よりご講演いただいた。

「がん教育は究極の啓発であり, 知識ではない意識の教育が必要であるとして, がんにおける日本の現状踏まえ, 学校におけるがん教育の在り方についてご講演いただいた。講演の最後に, 「がん教育にもチームが必要。教育の専門家である教師に, 医師 (学校医も含む) やがん経験者等外部講師が協力して進める必要がある。」と結ばれた。

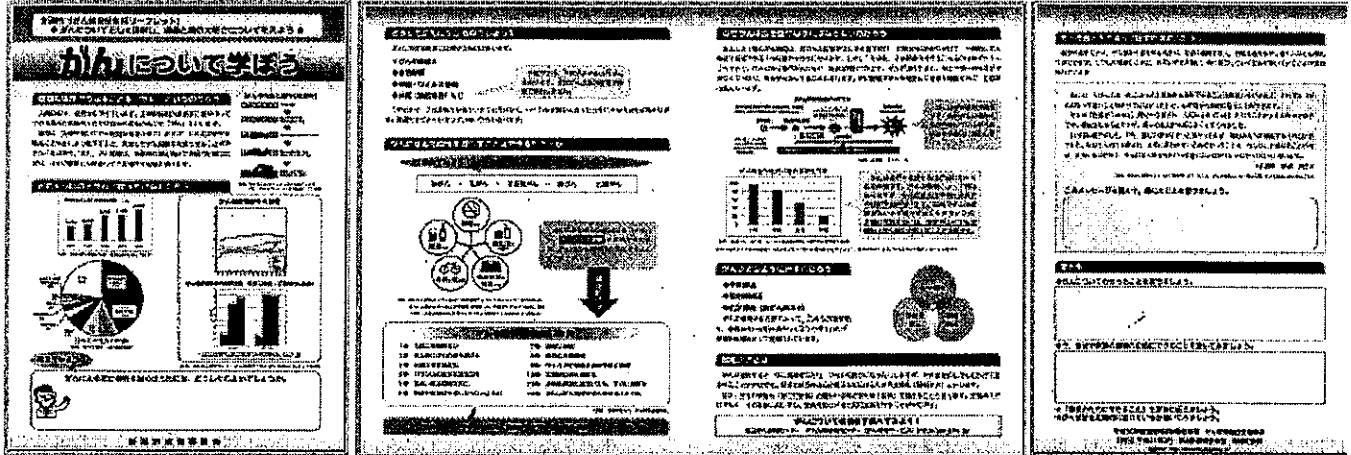
ウ 推進校の選定と取組への支援

市全体の学校に対して, がん教育推進のモデルとなるような積極的な取組を進めた。また, 外部講

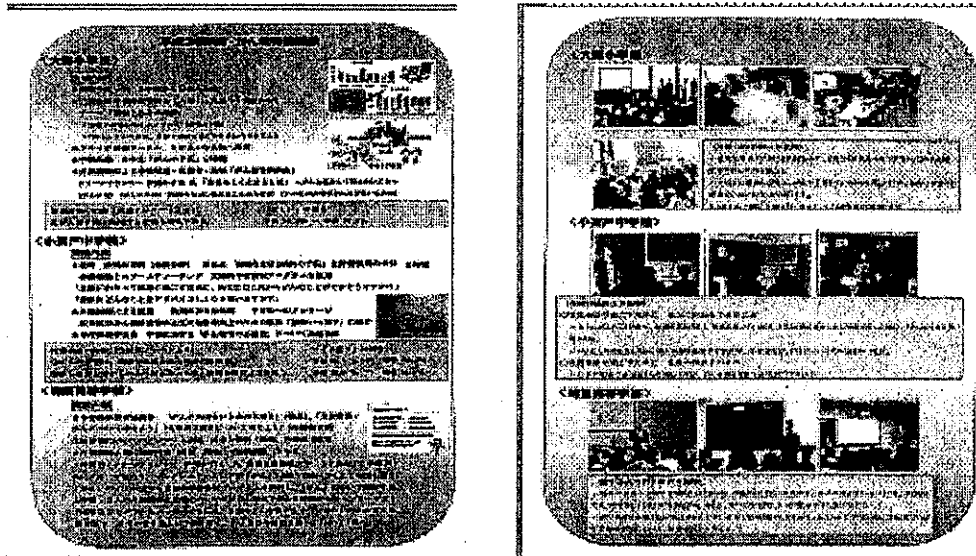
師の派遣を行った。

エ がん教育授業用リーフレット（中学校・高等学校用）の作成

教材活用を進めるとともに、授業で活用できるようなリーフレットを作成した。



〈A3 二つ折りで、生徒が直接書き込めるようにした〉



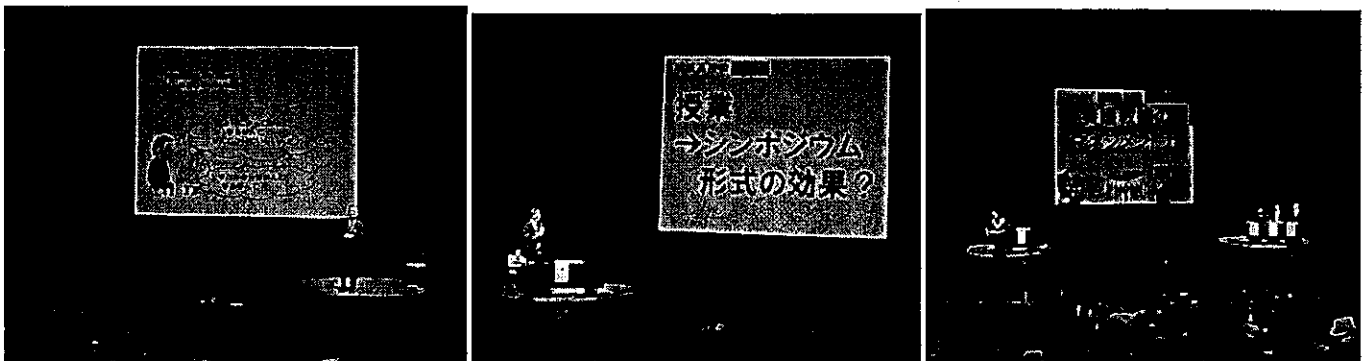
〈平成 30 年度の推進校の取組を紹介する別紙を差し込む〉

オ 市医師会や薬剤師会の研修会において、学校におけるがん教育について周知した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

推進協議会や研修会への参加により理解を深めるとともに、養護教諭の研修会や学校における授業・学校保健委員会に参加により校区の情報を共有し、専門的立場から指導・助言をもらった。

〈12月13日（木）新潟市がん教育研修会〉



〈 林教授の講演 〉

〈 実践発表 〉

(2) モデル校における取組

【大淵小学校】運動と心身の健康

9月19日 健康サミット「運動と心身の健康」(5年生)

運動と健康について調べたことを全校に向け発表し、全校で縦割り班ごとに、みんなが楽しめる運動遊びについて考える機会とした。

9月26日 学校保健委員会(5年生参加)

大人も子供も楽しめる運動遊びについて考え、積極的に運動をすることは心身の健康につながり、さらに病気(がん)の予防にもつながるとのことについて理解を深めた。

11月9日 6年生学級活動「がんの予防」

11月13日 外部講師(がん経験者)による講演会(全校・保護者)

講師 フリーアナウンサー 伊勢 みずほ 氏



〈外部講師による講演会〉



〈健康サミットでの児童の発表〉

【小須戸中学校】生活習慣病の予防とがん教育の必要性

9月2日 学校保健委員会 テーマ「学校におけるがん教育の必要性」について

10月31日 3年生 健康な生活と病気の予防「生活習慣病の予防②」

※養護教諭T・T、地区担当の保健師がゲストティーチャーとして参加

授業を実施するに当たり、次の3つのねらいをもとに実施した。

- ①健康の成り立ちや生活習慣病について理解を深めることで、班内の話し合い活動の活性化を図る。
- ②ファシリテーションを活用し、意見や考えの深まりを図る。
- ③保健体育科の教諭と養護教諭とのT・Tやゲストティーチャーとして保健師が参加することで、課題解決に向けた指導の充実を図る。

その結果、がんについての認識とがん教育とがん検診の重要性の理解が深まり、生徒から家族へのがん予防の啓発となった。



〈養護教諭とのT・T〉

〈保健師の協力〉

【高等学校】明鏡高等学校のがん教育はどうあるべきか

4月13日 ・健康教育講演会

- ①「がんとの出会いと命の大切さ」校長講話
- ②「生活習慣・がんについて考えよう」新潟市教育委員会
- ③「食事の大切さについて考えよう」新潟市教育委員会

・生活習慣についてのアンケート実施 → 保健体育科（科目保健）授業に活用

11月16日 1限 保健体育科（科目保健）授業 「生活習慣病などの予防と回復」

※講演・シンポジウム担当外部講師も参加

文部科学省の教材をねらいに合わせて活用し、がんのイメージを元に生徒に理由付けをすることができた。

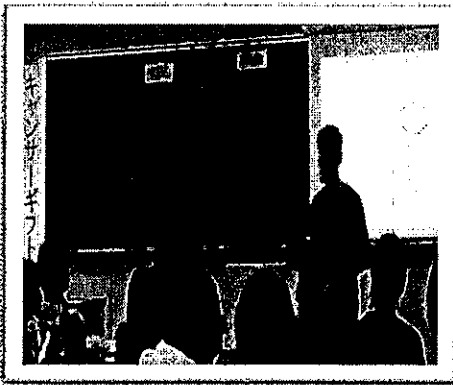
2限 外部講師による講演・シンポジウム「キャンサーギフトという生き方」

講師 新潟医療大学 准教授 五十嵐 紀子 氏

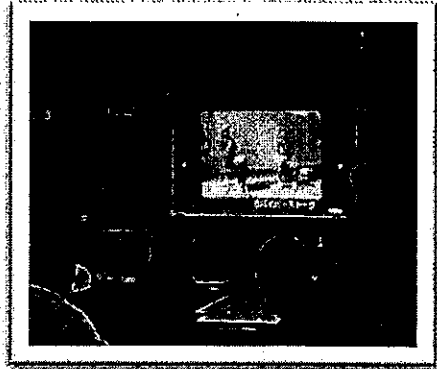
フリーアナウンサー 伊勢 みずほ 氏

生徒は、がん教育を通して、がんについて理解を深め、生活習慣や予防や早期発見・検診の大切さを実感することができた。さらに、これからの生き方についても考えるよい機会となった。

がん教育を推進するにあたり、保健体育科の職員を中心に学校全体で取組を推進することができた。



〈講演講師も授業に参加〉



〈シンポジウム形式の講演会〉

2. 事業の達成度について

(1) がん教育実施状況調査（平成 29 年度と成平成 30 年度との比較）

がん教育の実施率が上昇し、特に、中学校では 84. 2%の実施となった。小学校では、昨年度より上昇したが、依然として実施率が低く、課題である。

①今年度ががん教育を実施しましたか

(%)	H29新潟市	H30新潟市
実施した	36.8	52.7
実施しなかった	63.2	47.3

②今年度ががん教育を実施しましたか(校種別)

(%)	H29新潟市			H30新潟市		
	小	中	高	小	中	高
実施した	27.5	52.5	66.7	35.8	84.2	50.0
実施しなかった	72.5	47.5	33.3	64.2	15.8	50.0

(2) がん教育研修会の成果

- ①がん教育に関する不明瞭感や不安感が軽減され、実践への意識向上や理解につながった。
- ②推進校の実践発表により、推進校以外の各校におけるがん教育への取組の意識向上につながった（特に、小学校において）。
- ③地域の保健師や学校医等との連携の重要さが理解できた。
- ④研修会アンケート結果

ア 実践発表は、今後のがん教育の参考になりましたか。

とても参考になった	80%
まあまあ参考になった	19%
あまり参考にならなかった	1%

イ 講演は、今後のがん教育の参考になりましたか。

とても参考になった	92%
まあまあ参考になった	6%
あまり参考にならなかった	0%

ウ 本日の研修会は、外部講師活用の参考になりましたか。

とても参考になった	78%
まあまあ参考になった	19%
あまり参考にならなかった	1%

⑥研修会の感想や意見等

- ・保健体育科の職員が聴くと、よりがん教育導入がスムーズになると思う。
- ・養護教諭だけが頑張っても疲れてしまい、うまくいかないと思うので学校全体で共通認識をしたい。
- ・実践発表では取り組み内容を聴いて、実践がそれほど大変なこととは感じなくなった。また、講演では、子どもたちにこそ伝えるべきだということを強く感じた。小さな取り組みが大きな効果につながると感じた。
- ・がん教育ががんに特化したものではなく、生き方やキャリアなど様々な視点を持つことができるものであるということが分かった。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに目見えた課題など）

- (1) 研修会の内容の充実を図り、学校全体でがん教育が実施されるように啓発していく。また、推進校の実践が各校での実践のモデルとなり、実践に生かすことができるように提案する。
- (2) 研修会の参加については、養護教諭だけではなく、管理職・保健体育科の教諭・学級担任等への参加を増やし、教職員へのがん教育の理解を深める。
- (3) がん教育実施状況や研修会アンケートの結果を次年度に生かす。
- (4) 外部講師の活用・選定・依頼・派遣方法について教育委員会が相談窓口となり対応できるよう検討する。
- (5) 小学校でのがん教育推進を図るため、小学校用のリーフレットを作成する。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- (1) がん教育をすべての学校で取り組むことができるように、文部科学省から示されている通知やガイドライン等や教材について周知し、活用する。
- (3) がん教育推進校の実践事例集を作成する。
- (2) リーフレットの有効的な活用について検討するとともに、リーフレットの見直しを図る。